

~~~~~  
**国際理事会報告**  
 ~~~~~

2016年度ICD国際理事会報告

国際理事 橋本光二

下記の通り標記理事会に出席しましたので報告申し上げます。

1. 開催日時:2016年10月22、23日（8時～16時30分）
2. 開催場所：米国コロラド州デンバー市Sheratonホテル会議室
3. 参加者:国際会長はじめ執行部（7名）、Speaker（議長・1名）、国際理事（25名）、オブザーバー（9名）、ゲスト（3名）、事務局員（2名）
4. 議事：（具体的な内容は主たるものに限って報告する）
 - 1) 新国際理事紹介（4名:ウルグアイ、米国2名、イタリア）
 - 2) 諸議事録（前回理事会、執行部理事会、執行部ビデオ会議）承認
 - 3) 役員報告（会長、次期会長、副会長、前会長、財務、編集、事務局長から）
 - 4) 国際理事会事業委員会報告（医療安全、医療支援基金、抗菌剤使用検討、事業計画ガイドライン）（同ガイドラインを承認）
 - 5) 常置委員会報告（表彰委員会、定款委員会、歴史委員会、会員（組織）委員会、事業委員会）
 - 6) 臨時委員会報告（2016年度活動委員会）
 - 7) 特別委員会（会費未収委員会、ロシア対応委員会）
 - 8) 部会報告（部会I～XX報告）
 - 9) 執行部報告



図1 デンバー市内

(1)表彰について

- ・インド部会のRajiv Chugh Fellow、日本部会のKikuo Kobayashi Fellowに「Distinguished Service Award」を授賞することになり、全会一致で承認された

10) 執行部からの提案で理事会承認を求める件

- (1) (役員) 推薦委員会での推薦手順変更（承認）
 - ・各部会からの推薦は3ヶ月前に行い、委員会はずべての被推薦人を審査
 - ・国際理事会中に公式選挙を行い、選出された役員は理事会後直ちに職務に当たる。その他仔細な手順変更、確認を承認
- (2) ミャンマー（独立）部会を部会sectionから除外しregionへ降格（承認）
- (3) フェロー（Active）が500人を超える部会は国際理事1名を追加し、さらに500人増すごとに国際理事1名を加える（承認）
- (4) 中国での国際理事会（2013年1開催）で決定した部会での最低Activeフェロー数（120名）は、デンバー国際理事会開催年度末（2016年末）から2018年国際理事会まで施行を猶予する（承認）



図2 2017年度執行部

（右から）Rajesh Chandna国際会長、Clieve Ross 次期会長、Bettie Mackaig副会長、Richard M. Smith財務担当、S. Dov Sydney 編集担当、John V. Hinterman事務局長



図3 挨拶するRajesh Chandna新国際会長

11) 新役員

国際会長Rajesh Chandna（インド部会）、次期国際会長Clive Ross（オーストラリア部会・ニュージーランド）、直前国際会長Phillip Dowell（ヨーロッパ部会・英国）（以上自動昇任）、副会長Bettie Mckaig（アメリカ部会）（前回承認）、財務Richard Smith（アメリカ部会）、編集Dov Sydney（ヨーロッパ部会・イスラエル）、事務局長John Hinterman（アメリカ部会）、議長（Speaker: 司会進行）Thomson（オーストラリア部会）（以上留任承認）

なお今回の新役員（次期役員）には含まれないが、千田 彰が選考委員会で、2018年の副会長として選考された旨（他に立候補がなかったため）、委員長から報告があった。2019年に次期会長、2020年に会長に自動昇任することになる。

12) 各種委員会

2020年に日本で開催される創立100年記念祝賀会・国際理事会について、準備委員会委員長として千田彰、Bettie Mackeig両国際理事が選出された（今後、日本部会の委員会とも連携し準備していく）。



図4 懇親会

* Asia Unionの件

2016年3月国際部会XX・アジアRegion、マレーシア（クアラルンプール）（KC How国際理事：アジアRegion選出）で近隣諸国のフェローを招き、新入会フェローの認証式、大会が開催された（参加者約500名）。この新フェローの中に台湾からのフェロー5名（うち1名は台湾部会のフェロー）、インド部会、パキスタンなどからのフェローが含まれていた。また名称もアジアユニオンと称することが今年の国際理事会（アイルランド・ダブリン開催）で承認された。

このAsia Union（正式には、国際部会Asia Region）の設立を巡り、部会組織のあり方、フェローの認証・所属部会につき、設立を可とする執行部（特に事務局長。これまで低調であったアジア地域でのICD活動が急激に盛んとなり、会員数も大幅に増加した事が大きな理由か）と関係部会（台湾、韓国、インド）、及びこれらを支持する日本部会千田国際理事を含む複数の国際理事との間で対立があった。ダブリンでの決定（定款の文言修正）に問題があるという異議につき、時間を割き議論があったが、結局継続審議となった。